

私立大学図書館協会 2009年度第2回東地区部会役員会  
議事要録

日 時:2010年1月29日(金) 15:00~17:00

場 所:青山学院大学青山キャンパス総合研究所ビル3階(11会議室)

出席者:会長校<関西大学(北川、金、赤木)>、研究部担当理事校<東京理科大学(宮川)>、更新・会  
報担当理事校<跡見学園女子大学(大澤、菊地)>、月例担当理事校<関東学院大学(矢野)>、  
東北・北海道地区担当<東北学院大学(三浦、早坂)>、監事校<中央大学(工藤)>、部会長校  
<青山学院大学(山本、添田、伊藤、赤間、岩崎、岩谷)>

配布資料:

議事次第

「私立大学図書館協会東地区部会 2009年度第2回役員会」資料(以下、「役員会資料」と記載)  
<資料>

資料1:第2回役員会 出席者名簿&座席表

資料2:第2回常任幹事会資料

資料3:2010年度東地区部会予算(算出根拠)

資料4:私立大学図書館協会東地区歴代役員校一覧

資料5:役員校等選考に関する申し合わせ事項

議事に先立ち、部会長校青山学院大学(山本)より挨拶の後、新たに関西大学図書館長に就任された、  
北川勝彦館長の紹介が行なわれた。議事進行は、部会長校(山本)が担当した。

議事:

1. 報告事項

(1) 東地区部会関係

① 2009年度東地区部会活動報告(4月~12月)

部会長校青山学院大学(添田)より、役員会資料(p.2-4)に基づき、ア.加盟校数、イ.総会、ウ.  
役員会、エ.役員会事務連絡会、オ.館長会、カ.研究講演会(研究部と共催)について報告された。

② 2009年度東地区部会研究部活動報告(4月~12月)

研究部担当理事校東京理科大学(宮川)より、役員会資料(p.5-8)に基づき、ア.運営委員会、  
イ.合同会議、ウ.研究会(研究分科会報告大会)、エ.研修委員会、オ.研修会、カ.研究分科会の各活  
動について報告された。

(2) 第2回常任幹事会報告

会長校関西大学(北川、金、赤木)より、12月4日(金)に開催された常任幹事会について、  
資料2に基づき、主に以下の事項について報告された。

① 報告事項

・館名変更について(p.2)

武蔵工業大学図書館 → 東京都市大学図書館 2009年4月16日に遡って訂正する。

- ・加盟校への書類等の送付について（p. 3）  
「大学図書館協力における資料複製に関する契約書」等について2009年11月10日付発送済み。
- ・協会賞審査委員会報告について（p. 14）  
1月27日（水）現在、2件の推薦が出ている。審査委員会については、2月26日（金）慶応義塾大学図書館にて開催予定である。
- ・研究助成委員会報告について（p. 14）  
個人の申込み1件があり、現在審査中である。
- ・国公立大学図書館協力委員会報告について（p. 15-16）  
学位論文電子化の諸問題に関するワーキンググループ報告については、補正予算の半額を、今年執行する旨の報告があった。また、大学図書館が主体となっていた部分が削除され、実施案が修正された。
- ・情報保存研究会・日本図書館協会共催シンポジウムの後援について  
昨年同様、承諾書を送付済み。
- ・2009年度協会役員校、委員会および協会関連団体委員について（p. 17-19）  
下線部分の委員の方が、変更または変更予定の方となっている。
- ・2010～2011年 行事・会議予定について（p. 20）  
2010年1月28日（木）研究助成委員会、2月26日（金）協会賞審査委員会を開催予定。

## ②協議事項について

- ・2009年度一般会計中間決算報告・特別会計支出状況について報告があった。
- ・2010年度の事業計画（案）について北川館長より説明があった。  
「海外認定研修の試行的実施」の項目について補足があり、これについては、例えば夏休み・冬休み休暇中に個人で海外の図書館研修に参加した場合にも研修と認定し、補助金を支給する制度を考えている。少人数の大学図書館では業務期間中の研修参加が困難な場合もあり、長期休暇等を利用して研修に参加いただきたいとの趣旨である。さらに、電子掲示板の試験的運用については、加盟校間の情報交換や、除籍資料の他大学への情報提供要望などを踏まえ、会員同士の情報の共有化を図るため新たな提案である。これらの提案については、既に各委員会にて検討を依頼しており、運用については慎重に行なうべく、開始時期は4月1日に限らず協議したいと報告があった。
- ・2010年度一般会計・特別会計予算（案）、総会予算については、経常費の決算状況を考慮して、先述の海外認定研修や電子掲示板の試験的運用に各50万円計上することにした。総会・研究大会についても、今年70万円、昨年100万円の戻りがあるので、次年度は予算140万円と考えている旨説明があり、この件は、1月8日（金）西南学院大学での打ち合わせでも伝えてあり、万一赤字が出た場合は、常任幹事会としては予備費から補填したいとの説明があった。
- ・次回の総会・研究大会（p. 34-35）については、2日目の九州国立博物館にて研究大会および見学を行なう予定のため、福岡市内の大学から博物館のある大宰府までバス4台で移動（所要時間40～50分）する予定で、バスチャーター代は40万ほどかかるため補填する可能性があるとの説明があった。この日程については、西南学院大学と調整を行った結果、9月9日（木）総会、9月10日（金）研究大会とする旨報告があった。

### ③ 懇談事項について

- ・加盟館への宛名シール等の提供については、従来通りシールにて提供する旨を常任幹事会で確認している。
- ・2010年度協会脱退届の取り扱いについて  
大学経営上の理由による脱退の申し入れが2校あった。今後の対応について種々懇談を行った旨、説明があった。
- ・2009年度の国際図書館シンポジウムについては、準備の関係上、今年度の開催を見合わせることで了承されており、2010年度の国際図書館シンポジウムは、5月14日（金）、会場は青山学院大学で開催される旨報告があった。

#### <質疑応答>

- ・東京理科大（宮川）より、協会ホームページのメーリングリストでは添付ファイルは50KB程度しか添付できず、研究部の講師の方から事前の資料配布時に送れないなどの状況が発生しており、改善できないか。  
⇒関西大学（金）より、仕組みなど含め状況を確認し案内する。この件にも関連し、電子掲示板を検討している。
- ⇒東北学院大学（三浦）より、次年度の総会について、2日目の九州国立博物館へ行った後は、再度戻って来るのか。現地で閉会式を行い終了するのか。西南学院大学で記念講演、閉会式を行い、その後見学希望者を九州国立博物館へ移動させてはどうか。
- ⇒関西大学（金・赤木）より、現在の予定では、九州国立博物館で記念講演および閉会式を行い、終了後、バスで空港→博多駅→天神まで移送するとの補足説明があった。お昼に閉会式を行った後、博物館へ移動する提案もあったが、記念講演会前に閉会式を行なうわけにはいかず、このような日程になった。改めて、西南学院大学と調整したい。

## 2. 協議事項

### (1) 2009年度東地区部会中間決算報告について

部会長校青山学院大学（添田）より役員会資料（p.10）に基づき中間決算報告がされ、以下の協議の結果、了承された。

#### <質疑応答>

- ・監査担当の中央大学（工藤）より、単年度で見ると支出超過（42万円）が起きているのは、研修分科会支援金（57万円）によるものか。  
⇒青山学院大学（添田）より、指摘のとおりである。

### (2) 2009年度東地区部会研究部中間決算報告について

研究部担当理事校東京理科大学（宮川）より役員会資料（p.11）に基づき決算報告がされ、協議の結果、了承された。

### (3) 2010年度東地区部会事業計画（案）及び予算（案）について

部会長校青山学院大学（添田）より、役員会資料（p.12-13）に基づき、報告された。

#### ①事業計画（案）について

会長校による事業計画（案）に沿うかたちで計画案を作成している旨報告があった。

②予算（案）について

2010年度の支出の部については、フォーマットを費目別に変更したことにより、増減が生じている。単年度ではマイナスになるが、予備費を入れてカバーできているとの説明があった。

以下の質疑応答がなされ、事業計画（案）、予算（案）ともに了承された。

<質疑応答>

- ・監査担当の中央大学（工藤）より、中間決算報告と同様に、単年度で見ると支出超過（64万8千9百円）は、研修分科会支援金によるものかと質問があった。また形式を費目別にするのもよいが、個人的には総会単位でまとめた方が部会総会全体の費用が把握できる。いずれにしても細目が表記されたので、以前より分りやすくなっている。形式は部会長校に一任したい。
- ・関東学院大学（矢野）より、支出が超過するのは研究部交付金（57万円）の超過によるとの説明があったが、支出の小計と収入の小計は57万円の前後におさめるほうがよいのではないかとの意見があった。

⇒青山学院大学（添田）より、2010年度は支出の部で次期役員校が参加するため、役員会費が増加している。また、支出が収入を上回っている点だが、前回の総会でも繰越金が非常に多いとの指摘もあり、繰越金から支出することとした。

⇒中央大学（工藤）より、繰越額はどれくらいが妥当であるかの判断が難しい。昨年の部会総会で繰越金への意見は、参加費を払っている側からすると、これだけ繰越金があるではないかとの見方にはなるだろう。また研究部では今後、中間報告では50万円程度黒字だが、研修分科会支援金の交付が終わると厳しい時代がくると聞いているので、何年か越しに見た上で、繰越金の考え方を決めておかなければいけない。単年度で逼迫される状態だと、新しい案件に対応できない危険がある。

⇒青山学院大学（添田）より、同様に昨年の部会総会で出た、研究部、東地区部会で残った予算は、東地区部会あるいは会長校へ戻したらどうかとの意見があったが、財産目録を作成すると、東地区として588万円の財産があり、西地区は1600万円の財産があり、これを多いと見るか少ないとみるかではあるが、現状はこのようになっている。

(4) 2010年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について

研究部担当理事校東京理科大学（宮川）より、役員会資料（p.15-16）に基づき報告があった。

①事業計画（案）について

2010年度は2009年度と同様の規模で活動を行なうことを、運営委員会で決めている。

2011年度は研修分科会支援金がなくなるが、その分を捻出する計画は立っていない状況で、来年度相談したいとの報告があった。

②予算（案）について

- ・青山学院大学（赤間）より、2011年度より研修分科会支援金がなくなり、その分をどう捻出するかということだが、2009年度決算を見ると、現時点で107万円の予算から57万円しか支出されていないようである。50万円はそのまま残るのか。

⇒東京理科大学（宮川）より、今年度経費は70万円ほどかかっており、これを研修分科会支援金57万円と参加費14万円（一人当たり5千円）で支払っている。今後は受益者負担として参加費を増やす方向で、研修分科会を継続していくように考えている。特別助成金50万円に

については、実際には予備費的になっており、いまのところ、申請もないためそのまま戻すことになる。

⇒中央大学（工藤）より、単純に研修分科会支援金の57万円が出ているのではなく、107万円の内50万円が予備費的なもので残り60万円近くがどのような体質なのか検討する必要があるのではないか。さらに、毎年50万円ないし100万円を予算とすると予備費200万円はすぐになくなってしまいう金額であり、見直しが必要である。

⇒東北学院大学（三浦）より、特別助成金の表記は支出の項目としては研修分科会支援費としたほうがよいのではないか、助成金では収入の項目のように見える。

⇒関東学院大学（矢野）より、助成する側が出すので支出の部であり、各研究分科会に対し何か依頼があったときにまとめて助成するための50万円ということなので特別助成金の表記となっている。

上記の協議の結果、活動計画（案）、予算（案）ともに了承された。

#### （5）2010/2011年度研修委員について

研究部担当理事校東京理科大学（宮川）より、役員会資料（p.16）に基づき、2010～11年度研修委員については現在依頼中の状況で、2月末までにまとまる予定であることが報告され、了承された。

#### （6）2010年度部会総会、館長会及び研究講演会の開催（案）について

部会長校青山学院大学（添田）より、役員会資料（p.17）に基づき報告があり、了承された。

#### （7）役員校等選考に関する申し合わせ事項改定について

部会長校青山学院大学（添田）より、別紙資料4および別紙資料5に基づき、報告があった。

##### ①東地区部会役員校選出について

部会長校青山学院大学（添田）より、昨年の第1回役員会事務連絡会で協議し、継続審議となっている「東北・北海道地区担当理事校選出」について、ア. 部会総会前にアンケート調査を行なう、イ. 部会総会開催通知発送の際にこの問題に触れる、ウ. 部会総会で「申し合わせ事項」の改定案を提出する、など3案考えている旨の説明があった。北海道、東北地区に限定せず、「東京都地区以外」の加盟校から選出するなどが考えられるが、役員校の意見をお聞かせいただきたい。

##### <質疑応答>

⇒中央大学（工藤）より、部会長校が決めるのは大変ではないか。現状では、北海道・東北地区でバトンタッチして、現理事校が次期理事校を決めているのではないか。「東京地区以外」という範囲が漠然としているのではないか。役員活動費の10万円についても、実態に合わせて規定の整備が必要ではないか。

⇒東北学院大学（三浦）より、役員活動費を役員会出席費なのか地域に対する活動費なのか明確にする必要があるのではないか。活動費とするなら、地域での活動についても含まれるので、現実には足りない状況である。北海道・東北地区の大学の現状からすると、学生数2000名以上の規模の大学からの選出と定めても厳しいのではないか、5000名以上などとか、この件についてはもう少し様子をみたほうがよい。

⇒中央大学（工藤）より、まだ時間も残り状況が変化する可能性もある。2015、2016年度も東北地区から選出して、その間北海道については検討してはどうか。また他の案として、理事校を5校とする会則を改正し1校減らすことも検討してはどうか。

⇒東北学院大学（三浦）より、選考にあたっては各大学の組織上の事情を加味しつつ、中央中心だけではなく裾野を広げて参加を募るのも大切であり、理事校数を減らすのは、協会の活性化を考えると反対である。

⇒議長（山本）より、この議題についてはいろいろな要因があり早急な合意は困難であると考えられる。北海道地区の中でも意見は様々ではないかと思われ、現状で規定を改正するのは尚早であり、前回も今後協議を重ねていくという結論が出ているので、今後は特に北海道地区からインフォーマルに意見を聞き、出来る状態の大学があればご協力をお願いするなどの方法を考え、引き続き協議したいとの提案があった。

⇒中央大学（工藤）より、2010年度の部会総会の開催通知にアンケートを入れて、部会総会の懇談事項としてご意見を聴取するのも、今後の検討の一助になるのではないかと。

⇒東北学院大学（三浦）より、理事校選出に限らず、総会の開催、研修会の実施についても、関東地区に限らず広く検討していくような方向を考えてほしい。

## ②協会関連団体委員について

- ・青山学院大学（添田）より、別紙資料5に基づき、実態に沿って改正をおこなった旨報告があり、了承された。

## 3. 懇談事項

私立大学図書館協会東地区歴代役員校一覧について（資料4参照）

青山学院大学（添田）より、2012年度の東地区部会総会会場校は東海大学に決定した旨の報告があった。

以上